

FSBは、大きすぎて潰せない問題（TBTF）に対する改革の評価に係る最終文書を公表

金融安定理事会（FSB）は、本日、システム上重要な銀行（SIB）に対する大きすぎて潰せない問題（TBTF）に対する改革の影響評価に係る最終文書を発表した。本評価では、TBTF改革がSIBに関するシステムミック・リスクやモラルハザード・リスクをどの程度低減させたか、また、同改革の金融システムに対するより広範な影響について検証している。

本評価によって、TBTF改革は銀行をより強靱にかつより破綻処理可能にし、社会にネットで便益をもたらしたことが分かった。システムミック・リスクとモラルハザードの指標は正しい方向に向かっており、市場参加者がこれらの改革を信頼できると見ていることを示唆している。新型コロナウイルス感染症の流行によって、銀行の強靱性の向上と市場規律の強化が試されているが、銀行は、前例のない財政、金融、監督上の支援措置のおかげもあり、これまでのところショックを吸収することができている。

しかしながら、評価の結果、対処すべきいくつかのギャップが見つかった。

- 破綻した銀行に対する国家支援の必要性を最小限に抑え、破綻処理の実行可能性と信頼性を高めるために、破綻処理改革を完全に実施すべきである。これには、SIBの破綻処理可能性を高めるためのさらなる取組みも含まれる。
- 破綻処理枠組みや資金調達メカニズム、SIBの破綻処理可能性、破綻処理に係る措置に関する情報開示を向上する余地がまだある。
- 公的機関が（ベイルインなどの）破綻処理に係る措置の金融システムや経済への潜在的な影響を評価するために、追加的な情報が必要かもしれない。
- 国内のシステム上重要な銀行（D-SIB）へのTBTF改革の適用については、さらなるモニタリングが必要である。加えて、信用仲介のノンバンク金融仲介への移行に伴うリスクは、引続き注意深くモニターされるべきである。

ドイツ連邦銀行の副総裁であり、本文書を作成したグループの議長を務めるクラウディア・M・ブーフは、次のように述べている。「銀行が頑健であり、銀行が破綻に陥った際にこれを処理するメカニズムを有することは、金融の安定を保つために非常に重要である。本評価では、我々が成し遂げた進捗が強調されているが、これらの改革の便益を完全に実現するために、より多くのことができる。我々が特定したギャップを埋めるために、FSBと基準設定主体がさらなる作業を行うことを期待している。」

（以上）